

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について（注意喚起）

県内でA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者が増加しています。

県が実施している感染症発生動向調査の令和5年第50週において、仙南保健所管内における1定点医療機関当たりの患者数が8.00人となり、警報開始基準（8人）を超えました。

今後、県内全域において流行が拡大する可能性がありますので、発熱や喉の痛み等の症状のある場合は、家族や周りの方へうつさないように、下記の予防を徹底しましょう。

～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは～

A群溶血性レンサ球菌が原因の上気道の感染症で、主な症状は発熱、咽頭発赤、苺状の舌等で、発熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱（しょうこうねつ）」に移行することがあります。

感染経路としては、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛まつ感染」、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」、食品を介して細菌が口に入って感染する「経口感染」があります。発症時は抗菌薬での治療を行います。腎炎などの合併症を防ぐため、症状が改善しても主治医に指示された期間、薬を飲むことが大切です。

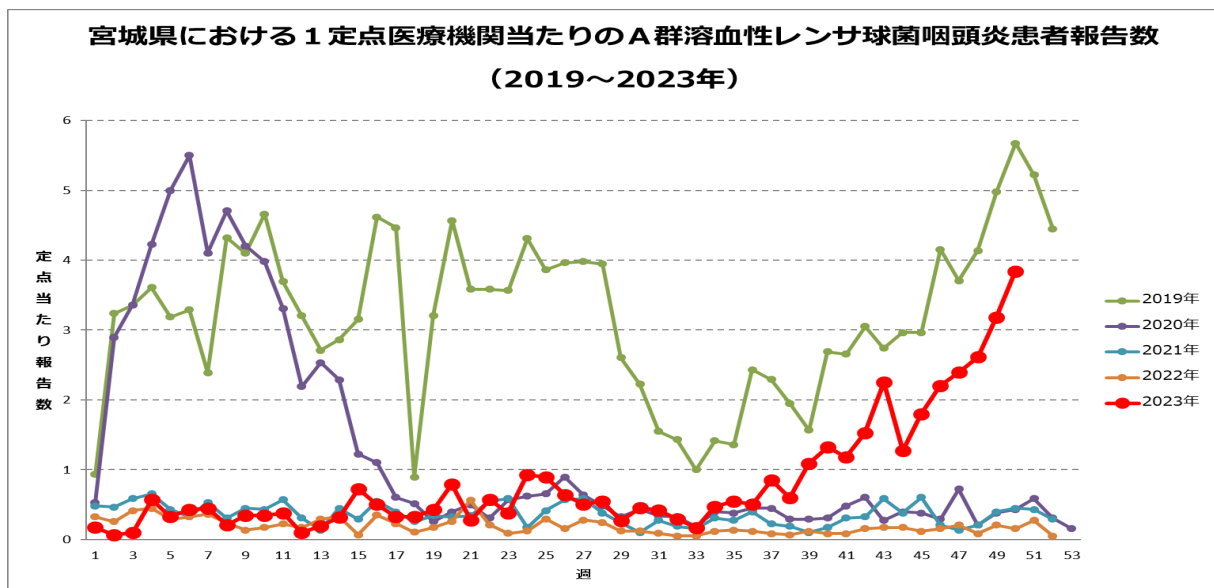
～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防～

- 1 外出後や食事の前などは、こまめに石けんと流水による十分な手洗いを徹底しましょう。
- 2 家族や身近な方が感染した場合は、タオルなどの共用を避けましょう。
- 3 「咳エチケット」を実施しましょう。
 - ・咳やくしゃみを他の人に向けて発しない。また、ハンカチやティッシュで口と鼻を覆う。
 - ・咳やくしゃみが出るときはマスクをする。

○ 患者報告数（第50週：令和5年12月11日～12月17日）

仙南保健所管内における1定点医療機関当たり患者報告数：**8.00人**

宮城県内における1定点医療機関当たり患者報告数：3.84人



○ 参考となるホームページ

国立感染症研究所「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ta/exanthem-subitum/392-encyclopedia/340-group-a-streptococcus-intro.html>

宮城県結核・感染症情報センター <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans/kansen-center.html>